

—生きることは分かち合うこと、弱き者と—

PHD LETTER

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

PHD LETTER
Volume

156

2024.7

公益財団法人PHD協会

個人情報保護の為、
一部内容を伏せて掲載しています。
ご了承くださいませ。

※156号はHP上にて非公開の内容が多いため、
非公開内容の閲覧をご希望の方はPHD協会まで
お問い合わせをお願いいたします。

Contents

- P.2 2024年度事業方針・計画
- P.3-6 2024年度第40期研修生紹介
 - P.3-4 チャチャさん/インドネシア
 - P.5-6
- P.7 ローターリー米山記念奨学会
- P.7 日々是東奔西走
- P.8
- P.9-10
- P.11-12 居住支援事業報告
- P.12 国際協力・交流シェアハウス「みんなのいえ」便り
- P.13 2024年度新スタッフ紹介
- P.13 2024年度25期国内研修生紹介
- P.14 PHD活動紹介 2024年4月～2024年6月
- P.15 PHD News



PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

公益財団法人PHD協会

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和(Peace)と健康(Health)を担う人づくり(Human Development)をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年に今井鎮雄(初代PHD協会理事長)と共にPHD協会を設立しました。

PHD LETTER 156号

発行：公益財団法人PHD協会
 住所：〒653-0836 神戸市長田区神楽町3丁目7-4
 電話：078-414-7750
 F A X：078-414-7611
 E-mail：info@phd-kobe.org
 U R L：http://www.phd-kobe.org/

温故知新 岩村語録 その28

おかあちゃんホーム



岩村昇先生と岩村史子さん

マヤやジャック、ジョーのように結核とかコレラなどで両親を失ったネパールの孤児たちを、さらに多くわが家の一員として引き取って育てたいという私共夫婦の祈りから始まりました。

おとうちゃんのヘソクリ、伊藤先生ご夫妻、さらにネパールの友人たちの献金、寄付などで、おかげさまで2階建てのなかなかいい家が、カトマンズの郊外に出来上がりました。始めは質素なネパール式の家を考えていたのですが、意外に立派なネ洋折衷の家になってしまい、びっくりしています。

引用：ネパールで起こった奇跡 ネパール通信3 P10 (新教育出版社1973年6月)

上記は岩村先生のベターハーフである史子さんの文章。時を超えて今年の研修生ミーミーさんも孤児のお世話をしている。岩村先生、史子さんの想いを少しでも継いでいきたい。(さ)

2024年度 事業方針・計画

「50周年を見据えた事業の継続発展、運営安定性を向上させる」

コロナ禍という非常事態から平時への移行、安定化への一年としたい。従来通り研修事業を軸としつつ、2020年10月に開設した「国際協力・交流シェアハウスみんなのいえ」を軸とした国内での居住支援事業との両立を目指す。

また50周年などを見据えた中長期スパンでの事業の発展、運営の安定性を高めていくことにも着手したい。その土台として次世代の職員育成にも注力していく。

研修事業

～土台づくりの一年、テーマは新しい出会いと費用高騰への対応～

研修担当の変更に伴い土台固めの一年となる。同時にコロナ禍の影響を払拭し、従来の研修事業に近づける、ないしは新しく構築する一年としたい。そのためにも既存の支援者、指導者との関係性を大切にしつつ、新規の開拓にも努めていく。また費用高騰への対応は難しいが節約を行いつつ、支援を呼びかけていきたい。

研修生招聘はミャンマーから孤児院の先生の招聘を継続する。未来を担う子どもたちの教育を支える人材育成を通じて、平和な未来づくりに貢献していきたい。また他の国、地域についても新しい可能性を探り、研修事業を通じたアジアの平和への貢献を模索していく。

居住支援事業

～重点支援対象者の自立を支える伴走支援と食料配布会を通じたアウトリーチ活動～

2024年度は「国際協力・交流シェアハウス みんなのいえ」を軸とした居住支援、シェアハウス外の外国人を対象にしたアウトリーチ型生活相談支援に取り組む。昨年度より開始した食料配布会を2ヶ月に一回実施し、食料支援とアウトリーチを行う。それに加え、広報啓発事業と連携し外国人が抱える課題への理解者を増やす啓発活動にも注力していきたい。

多文化共生事業

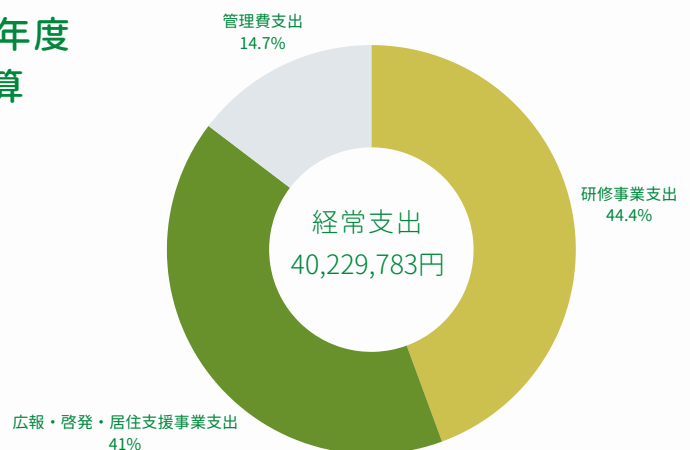
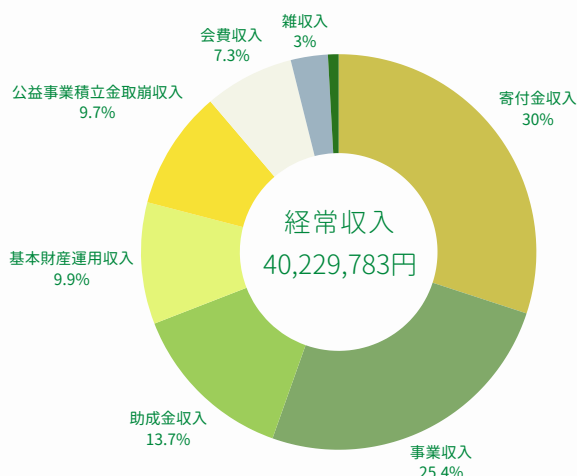
～日本社会への啓発&外国人の方達の活躍促進～

多文化共生社会の実現のための活動を行う。具体的には登録支援機関として外国人労働者の就労支援、JICA・NGO等提案型プログラムにおける「多文化共生に資するコンサルテーションを通じたNGO等の能力強化プログラム」（通称タブコラ）や難民事業本部、神戸YMCA、JICA、兵庫県・神戸市教育委員会との連携で「多文化共生のための国際理解・開発教育セミナー」等、ネットワーク事業を実施する。また大学等での講演も行い、啓発活動も行っていく。

広報・啓発事業

～将来を見据えた広報・啓発活動と業務効率化の推進～

定型の広報活動である会報年3回、事業報告書、会費チラシ、年末募金チラシ等を滞りなく発行し、その上でSNSでの発信を着実に実施する。また、ファンドレイジング担当との連携で、ふるさと納税等の新しい取り組みにもトライする。活動資金としてマンスリーサポーター増加を目指した広報活動も実施する。業務効率化に関しては2021年度より実施しているシステム移行作業を継続する。



PHD 2024年度第40期研修生紹介

研修担当 内堀友晴=文



チャチャ

インドネシア/2003年生まれ

チャチャさんの研修

食品加工技術

タベ村は観光地として国内外の観光客が訪れる場所になっています。村内で特産物を加工し、土産物として販売する計画がありますが、加工技術が伴っていません。食品加工についての知識を学び、タベ村の観光をリードする新たな特産品を生み出したいと考えています。

農業

村の農作物が害虫に食い尽くされることがしばしばあります。農薬を散布した場合、害虫は駆除できますが、農薬の効果が強く作物にもダメージを与えてしまいます。一方で無農薬栽培の場合は、害虫や病気と日々対峙することになります。日本の様々な農業の現場に出向きタベ村と比較し、日々どのようにして病害虫と向き合っているのかを学び、タベ村の農業の改善に努めたいと考えています。

子どもの健康

タベ村では食事に対する意識が低く、特に高齢者は化学物質についての知識が不足しています。両親が共働きの家庭で祖父母と日中暮らす子どもたちは、食事の時間が決まっておらず、菓子類などを多く摂取しているのが見受けられます。栄養学や栄養教育について学び、村の食生活の改善につながる知識を得ていきたいです。

西 スマトラ州ソロ郡タベ村出身のチャチャさん。タベ村は州都パダンから3時間ほど内陸部に入った標高約1100mに位置する山村で、PHD協会ではチャチャさんを含め9人の研修生をタベ村から招聘しています。

タベ村のモスク付近で生まれ、普段はコーヒー工場に勤務する傍ら、青年団の一員として清掃活動や魚の養殖場を作るなど、村のための活動を積極的に行っていました。チャチャさんの青年団での姿勢やタベ村に対する思いが地域の人達に評価され、今年度の研修生に選ばれました。帰国後はタベ村の協同組合の職員として活動する予定です。特産品の農産加工の技術や、農業に関する知識を研修で学んでいきたいと考えています。

生まれて初めて村を離れ戸惑いやホームシックもある中、前を向いて、そして時には涙を流しながらも、一歩ずつ進むチャチャさんが協同組合のキーパーソンとなれるように研修期間で1つでも多くのことを学んでいくことを願っています。



滞在家族

宝田正和さん、てるみさん

我が家としては5人目の受け入れになります。久しぶりの受け入れでとても楽しみにしています。我が家にホームステイして2カ月、食生活も少しずつ慣れてきたように思います、生野菜と煮物が少し苦手なようで苦戦しています。

農業の手伝いはびっくりするくらい手早いです。インドネシアでお母さんのお手伝いしっかりされているんだと思いました。若いのに偉いです。

私達もチャチャから教えられる事も多いと思います。一緒に勉強して行きたいです。



チャチャさんタバ村での1日

6:00~ 起床

チャチャさんの1日が始まります。
お祈りは1日に、夜明け・昼・午後・日没後・夜の計5回。
礼拝時間は滞在場所や季節によって異なります。
チャチャさんの家の前には大きなモスクがあります。
お母さんのお店はいつも大忙しです。



自宅の正面にあるモスク



お母さんが営む売店

9:00~ 青年団のミーティング

ゴトン・ロヨンというインドネシアの村の相互扶助の慣習で、
タバ村の清掃などを行います。
チャチャさんもその一員として村のために活動しています。



清掃活動の様子

10:00~ 青年団の活動

青年団の活動の成果もあり、道端には綺麗なお花が咲いています。
ゴミも落ちていません。
現在は民泊もあり、観光客も訪れる場所になりました。
活動の一環で溜め池を作り、そこではセラピアを育てています。



タバ村の景色

12:00~ 昼食

昼食を食べてお祈りを行います。



アヤムゴレンとミーゴレン

13:00~ 青年団の活動



青年団の活動で作った溜め池

15:00~ 青年団の活動終了

タバ村にはサッカーやバレーボールを楽しめる運動場があります。
ここは1999年第17期研修生のダスウィルさんが作りました。
タバ村の人々の交流の場となり、
チャチャさんも趣味のバレーボールを毎日楽しんでます。

バレーボールを楽しむ
チャチャさん

18:00~ 夕食

時期によってお祈りの前後に食事を取ります。



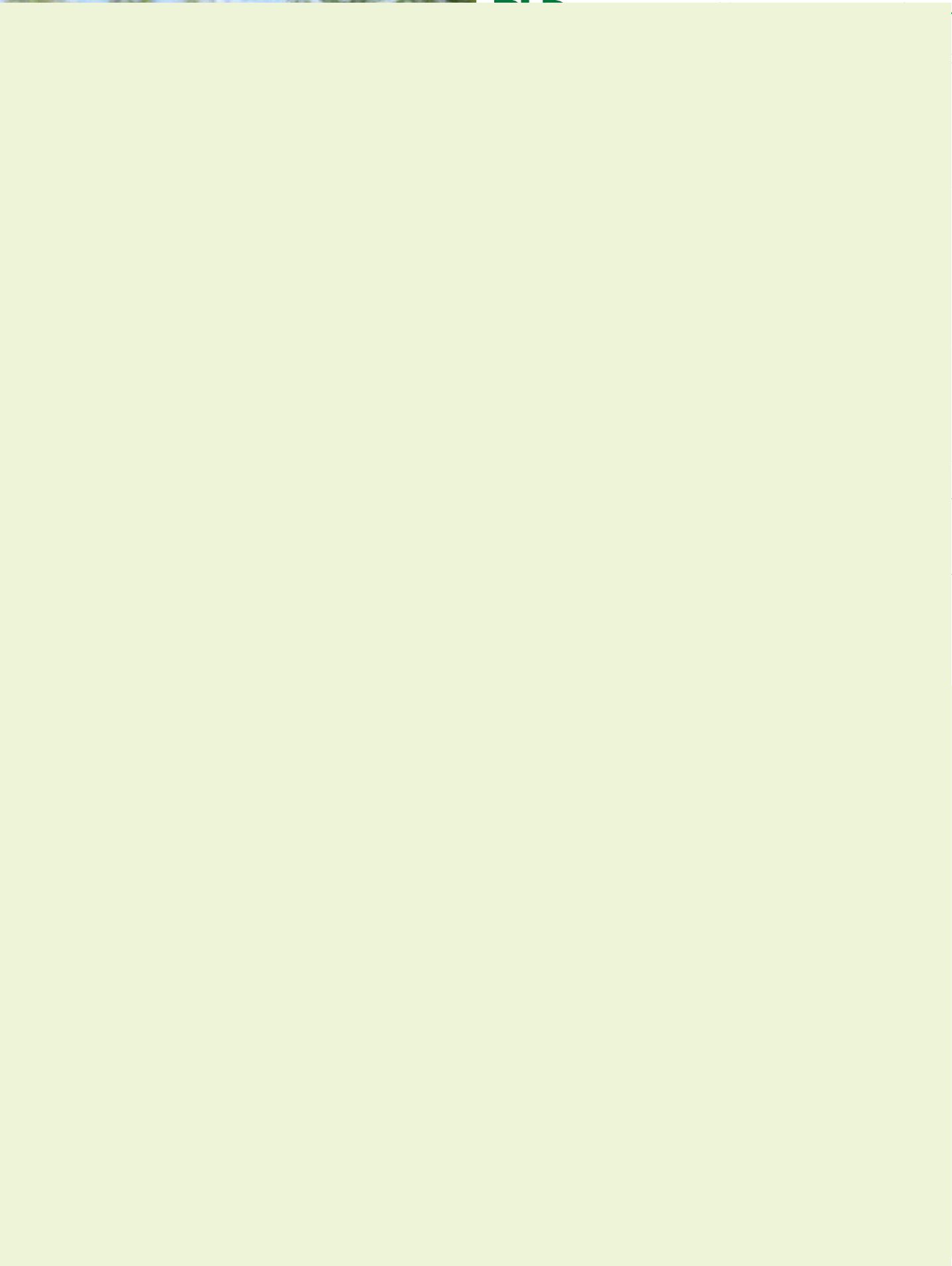
自宅の台所

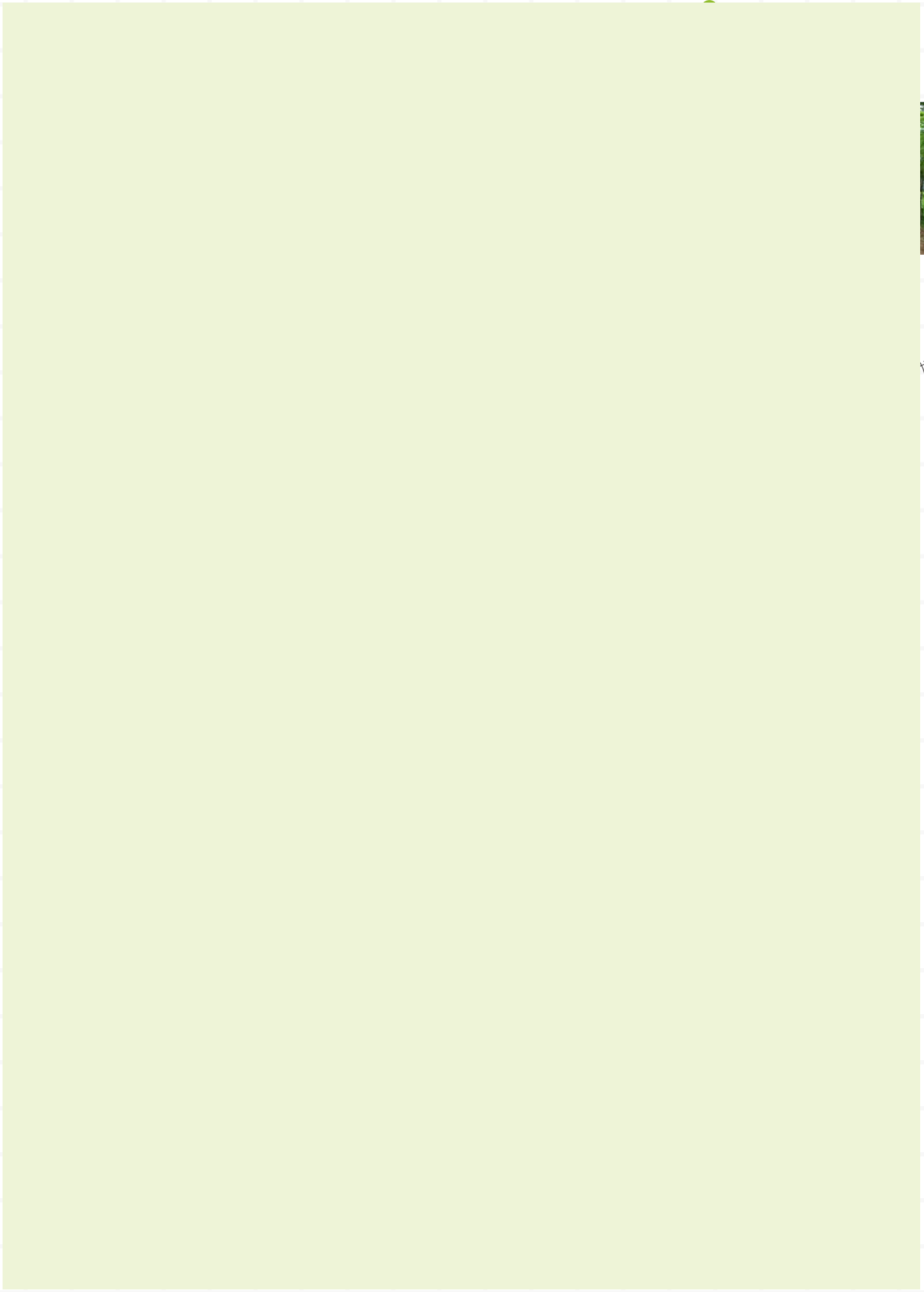


チャチャさんの部屋

22:00~ 就寝

今日も1日お疲れ様でした。





5

PHD ローターリー米山記念奨学会

2024年度も米山奨学生としてPHD協会の研修生2名を受け入れていただきました。

米山奨学生担当 濱宏子=文



飯田天祥さん
篠山ロータリークラブ
チャチャさんのカウンセラー

●飯田天祥さんからのメッセージ●

チャチャはインドネシアからの奨学生で、特産物を使ったお菓子などの開発販売、地域の観光と経済の活性化を目指して学んでいます。月1回篠山ロータリークラブの例会に参加します。丹波篠山は、特産品を活かした観光地で、学ぶのに最適です。一年間さまざまな知識を身につけ、これらの経験を活かすことができれば、地域の観光事業の発展に大きく貢献してくれることでしょう。

●篠山ロータリークラブのご紹介●

篠山ロータリークラブ様にはいつもインドネシアの研修生がお世話になっております。長くインドネシアに関わってくださっているため文化や習慣に深い理解があり、お弁当はHALAL（イスラム教合法）に拘ってくださいます。元研修生の村の小学校に文房具や本を継続して寄付して頂き、子ども達からも感謝が届いています。今年度カウンセラーの飯田様はお寺のご住職。イスラム教のチャチャさんにも大きな学びがありますように。



荒木健作さん
川西ロータリークラブ
ミーミーさんのカウンセラー

●荒木健作さんからのメッセージ●

川西ロータリークラブでは、長きに渡り、ミャンマーから奨励生を受け入れてきました。多くの奨励生の皆様は、故郷に戻って、大変厳しい状況下でも子どもたちの教育環境改善にご尽力されている姿に頭が下がる思いです。ミーミーさんにも、日本の文化、風習に接していただき、ご自身の人間力向上に努めていただけると嬉しいです。

●川西ロータリークラブのご紹介●

川西ロータリークラブ様にはいつもミャンマーの研修生がお世話になっております。ミャンマーの困難な状況を我が事のように心配し、常に元研修生の気持ちに寄り添ってくださいます。研修生の村にできた「人生の光図書館」もご支援のおかげで順調に稼働しており、利用者も増えています。今年度カウンセラーの荒木様、ミーミーさんをよろしくお願い致します。

日々是 東奔西走

研修担当
内堀友晴

『日本語と格闘する』

4月初旬から6月初旬までの30日間の日本語研修は、研修生にとって非常に濃密な期間でした。午前9時半から午後2時半まで神戸YMCAで授業を行い、午後3時半から午後5時半まで

ボランティアの皆さんとマンツーマンで宿題を行う日々。馴染みのない文字や単語と向き合い続ける1日ですから、夕方には研修生の心や身体もヘトヘトに。

日本語を学ぶ2人の様子を見ると性格が手に取るように分かります。チャチャは宿題を丁寧に解いて、分からないところはしっかり理解したい。じっくり考えて頭の中で文章を考えて話そうとします。一方ミーミーはスラスラと宿題を解きたい。そしてとにかく間違えながらでもたくさん話します。対照的な2人ですが、仲がとても良いのが面白いところ。



神戸YMCAで日本語の授業を受講する研修生

来日当初、研修生はボディランゲージやGoogle翻訳を通してコミュニケーションを取っていましたが、日本語研修の終盤では、互いにしっかり目を見て日本語でコミュニケーションをとり、今どきの若者らしくSNSに投稿する写真や動画を日本語



2024年3月22日、無事来日した様子

での確に指示して撮影し合う姿を見ると、本当に日本語が上手になったなあとしみじみ思います。日本語の難しい表現をスラスラと話す研修生を見るのが研修担当の密かな楽しみなのです。

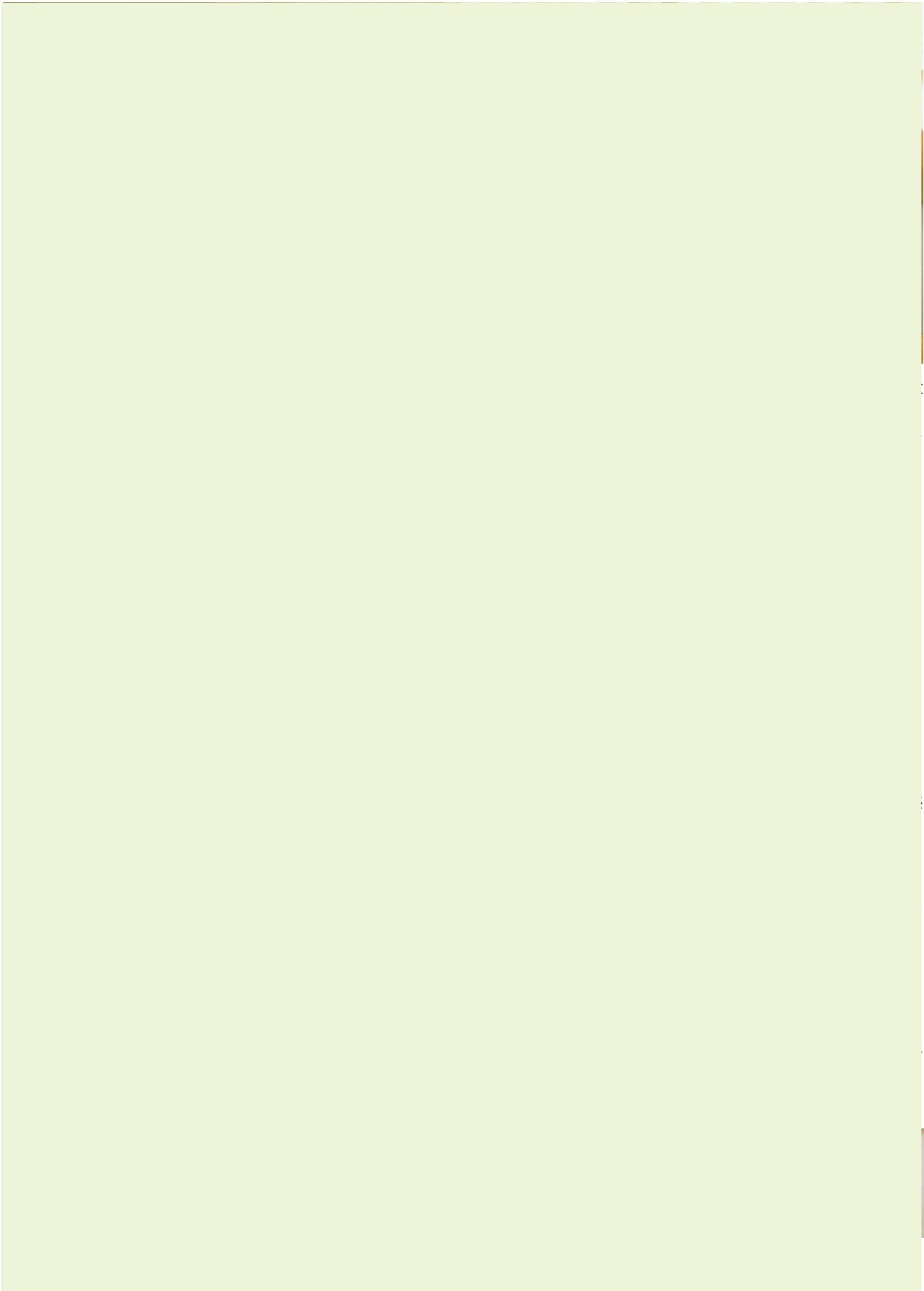
授業の後に事務所でボランティアさんと復習をする様子。

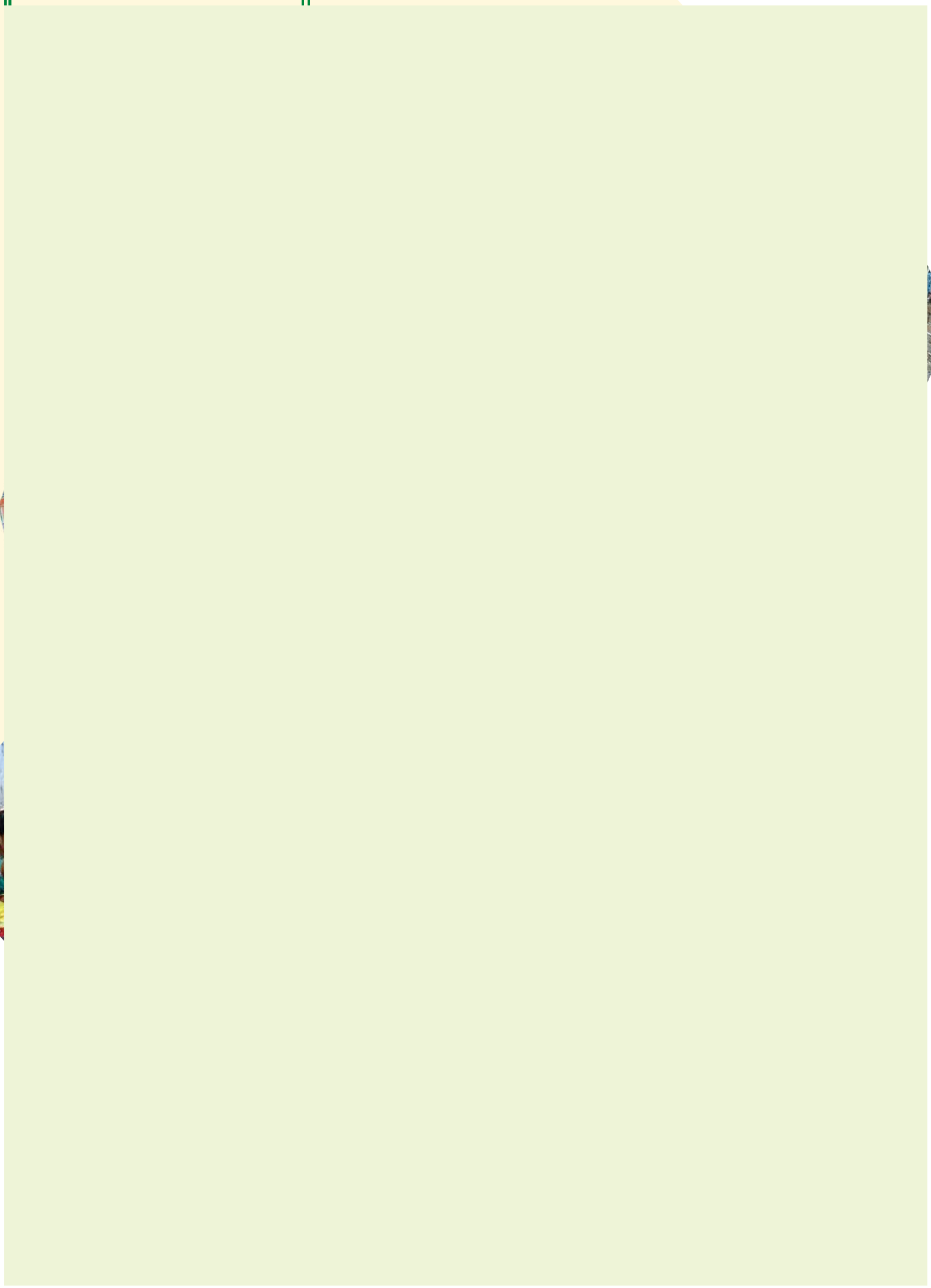


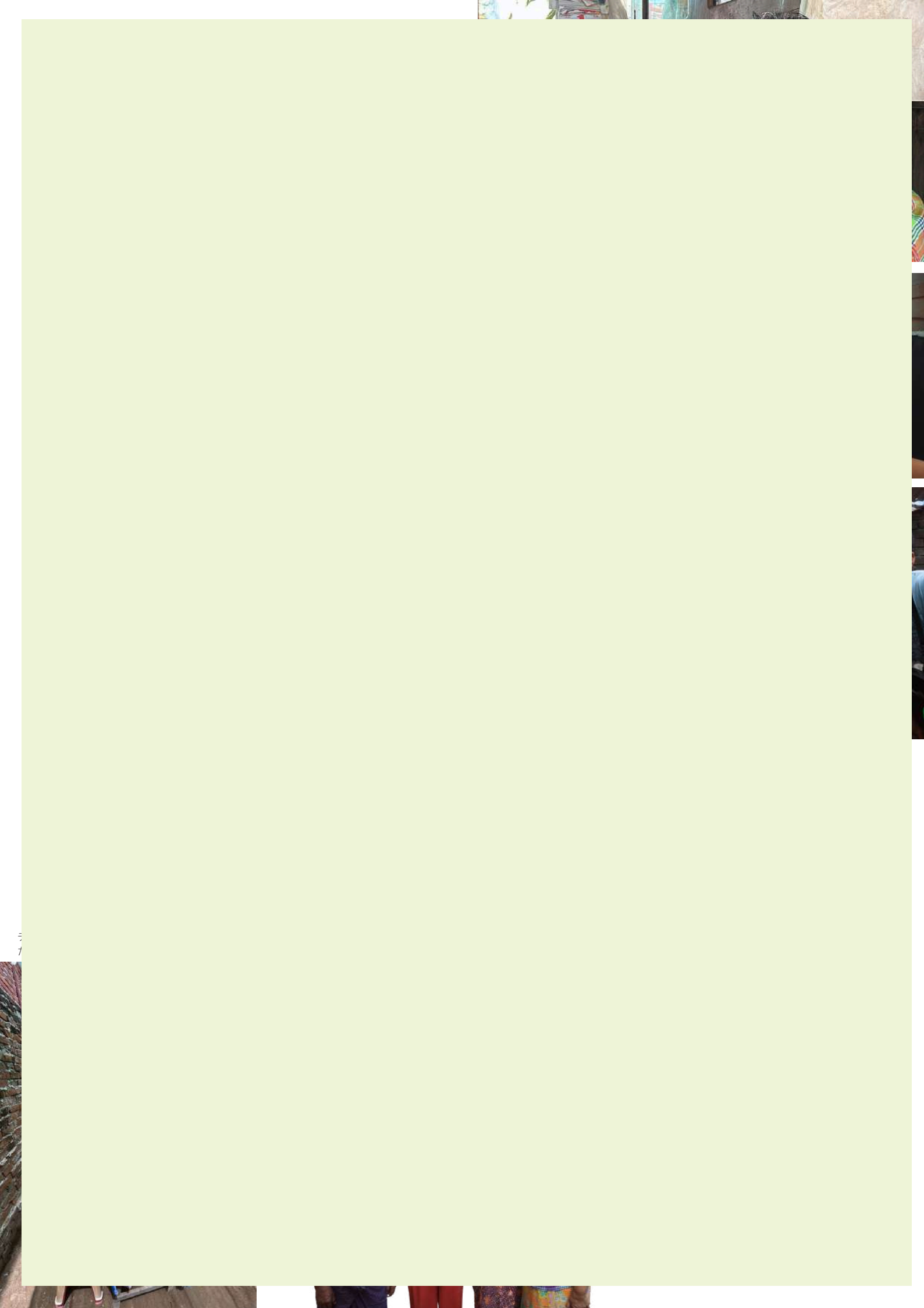
「ハート作って〜♪」
研修生からのリクエストに照れながら応じる研修担当なのでした。

(これも大切なコミュニケーションです!)









居住支援 事業報告

PHD協会では、生活にお困りの外国人の方を対象に居住支援や就労支援、日本語学習支援、生活相談、食料支援などを実施しています。困窮度の高い難民申請者やアフガニスタン・ウクライナ避難民への支援に取り組みながら、増加する留学生の生活相談も広く実施してきました。本稿では下記2つの活動についてご報告します。

1 相談事例の紹介

外国人が抱える課題の背景や要因をより多くの方に知っていただくために、SNSを中心とした相談事例の発信を行っています。今回はみんなのいえに3か月間滞在したインドネシアのムハンマドさんの事例を紹介します。

基本情報

名前：ムハンマドさん（仮名）

国籍：インドネシア

在留資格：特定技能

支援内容：居住支援、食料支援、就労支援、在留資格変更のサポート



入居初日のムハンマドさん。早速シェアハウスの同居人と打ち解けていました♪




相談までの経緯

2022年
来日後、北海道の牧場で勤務。




2023年3月
労働環境に耐えきれず牧場から逃げ出すことを決める。




2023年4月
知人から教えてもらった某大学のS先生に助けを求める。S先生の紹介で北海道のシェルターに避難。シェルター先で支援者と繋がり、みんなのいえに入居。

ムハンマドさんが経験した困難

送り出し機関である
インドネシアの日本語学校


介護の仕事がしたいと申し出ていたが、「1年我慢したら転職できるから」と牧場で働くように告げられ、強引に送り出された。

受け入れ先の牧場

用意された住まいは壁が薄く、倉庫のような小屋だった。何着も服を重ね着し、北海道の極寒に耐える日々を過ごす。休みが1日もない月もあり、過酷な労働環境だった。

登録支援機関

転職について尋ねると帰国をほめかされた。



現在のムハンマドさん

在留資格を変更し、以前から希望していた介護職の正社員として働きました。その後、在留資格を再度変更し、現在は飲食業に従事しています。

78日間滞在し、笑顔で「みんなのいえ」から旅立ちました。



2 ニーズに合わせた食料支援

2か月ごとに実施している食料配布会に加え、個別の食料支援を行っています。

大学院でITを学ぶバングラデシュ人のサビルさんは奨学金の審査に落ちたため学費の支払いが困難となり、食料支援のリクエストがありました。

また、昨年6月にウクライナから避難したルドミラさんは、これまで兵庫県から公営住宅への無償入居および生活費の支給を受けてきましたが、来日から1年が経過した今年6月に生活費の支給が終了しました。現在新たに民間団体に生活費支援の申請をしていますが、その結果が出るまで継続した食料支援を行っています。ルドミラさんは持病も抱えており高い医療費がかかるという事情もあります。

今後も一人ひとりの状況に合わせてながら、食料支援を通じた生活のサポートを実施していきます。

※本事業は赤い羽根共同募金「居場所を失った人への緊急活動応援助成」第8回、公益信託神戸まちづくり六甲アイランド基金の助成を受けて実施しています。



写真①/食料支援でハラル食材を購入するサビルさん
写真②/PHD協会事務所でサビルさんにヒアリングする様子。
写真③/PHD協会事務所で食料支援を受けるルドミラさんとルドミラさん娘。
写真④/食料支援で食材を購入するルドミラさん。



国際交流・協力シェアハウス「みんなのいえ」便り



国籍を超えて共に生きる

PHD協会が2020年5月に長田の地に根ざすことを決め、その年の10月に念願のシェアハウスを開設したことが昨日のように思い出される。どの顔も懐かしく鮮明に思い出される。

最近の入居者、ミャンマー人のKさんは礼儀正しい綺麗好きの好青年、ヨルダン人のMさんはいつも陽気で欠かさず事務所の分まで早朝のゴミ捨てをしてくれる。インドネシア人のAさんは苦労の末、日本を離れることになったが出発まで気持ちに寄り添うことができ、今も交流が続く。共同生活の中でお互いのできることを助け合い感謝し、人間関係を築く。お互いを良く知れば知るほど文化の違いを超えることは容易いのだと感じる。

シェアハウス開設から今日までそれぞれのゴールへと送り出した外国人は30人。今日も同じ空の下どこかで頑張っているだろう彼らの日々に思いを馳せる。みんなどうか幸せに。

みんなのいえ施設長 濱宏子=文



研修生2人と夕食作りをするミャンマー人のKさん



自身についての記事が毎日新聞に記載されて「Wow! Celebrity!! (私は有名人だ!)」と感激しているヨルダン人のMさん

PHD 2024年度新スタッフ紹介



はじめまして！

うちぼり ともはる

内堀 友晴

Uchibori Tomoharu

です



自己紹介

はじめまして、内堀友晴と申します。学生時代に北インドのある1つの言語を専攻し、最低で最高な大都市デリーで悪戦苦闘し、言語を通して南アジアのできる限り多くの文化や歴史に触れてきました。私の奥底にはインド亜大陸を旅して出会った人達の温もりがヒマラヤ山脈のように連なり、そしてガンガーのように広大に身体中を流れています。

興味関心のアンテナをたくさん張り、これからも貪欲に様々な知識や経験を得て、それらを私の周りに、そしてPHD協会の活動に1つでも多く還元できるように、ぼちぼちに頑張ります。皆様、これから宜しくお願い致します。

他己紹介 みんなのいえ施設長 濱宏子

2024年、大きな期待を背負って登場した新研修担当内堀さん。とにかく軽いフットワークは前職（某生協さん）に依るものでしょうか。どんな業務も涼しい笑顔でサクサクこなしてくれます。研修担当業務は日々の連絡やスケジュール調整に加えて研修生の細かい悩みにまで寄り添う大変なお仕事です。だからこそ、そのやり甲斐も非常に大きなものです。持ち前の明るさでこの1年、大きな愛を持って研修生を育て、自身もまた大きく成長してください。ついでに胃腸も鍛えてね（笑）。

PHD 2024年度25期国内研修生紹介

自己紹介

はじめまして。神戸大学理学部物理学科1回生の家本康ゆにと申します。私自身が外国にルーツがあり、幼少期からPHD協会の研修生が自宅に来てくださったりと多文化共生に関心がありました。高校時代にはPHD協会のみんなのいえに滞在されていたインドネシア人の方にインタビューさせていただく機会を頂きました。しかし、自分が社会に直接影響を及ぼすことはできず歯がゆい思いをしておりました。

そんな中、進学を機に神戸に移ることとなり、PHD協会のインターンとして関わらせて頂く機会を頂きました。未熟なことも多々あり、短期間のインターンとなりますが、自分なりにどのように多文化共生に関わることができるのかを考えながら精進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

他己紹介 事務局長 坂西卓郎

東日本研修旅行のホストファミリー宅の娘さんだったゆにさん。たぶん、最初に会ったのは6歳ぐらい？ネパールのランマヤさんが泊めてもらいました。それから10年以上経って、国内研修生となってくれるというのは嬉しい限り。自己紹介にあるように歯がゆい想いや自己矛盾に葛藤しながらも前に向かって歩いていく姿が印象的。自分が吸収するだけで満足できず、社会への還元や貢献を目指しています。



はじめまして！

いえもと かんゆに

家本 康ゆに

Iemoto Kanyuni

です





PHD 活動紹介 2024年4月～2024年6月

4月

- 1日 CODE海外災害援助市民センター 訪問
- 3日 PHD協会第6回食料配布会
- 4日 PHD協会辞令交付式
NGO・外務省定期協議会 NGO側「連携推進委員会」 参加
- 5日 多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー実行委員会 参加
- 7日 2024学年度米山記念奨学生オリエンテーション 参加
- 8日 NGO神戸外国人救援ネット運営委員会 参加
- 11日 第44回RYLAセミナー[青少年指導者育成セミナー]（～14日まで） 参加
NGO Lunch Talk 参加
- 13日 関西NGO協議会お花見 参加
- 15日 神戸親和大学 講義「国際ボランティア論」
- 19日 HYGON運営委員会 参加
- 21日 手話しゅわマルシェ in 京都 訪問
- 23日 NGOピボットインタビュー第5回 参加
- 24日 篠山ロータリークラブ例会 参加
- 25日 甲南女子大学 講義
- 26日 川西ロータリークラブ例会 参加
- 28日 兵庫県ユニセフ協会「2024国際理解講座①ミャンマーの子どもの願い～彼らの置かれた現状～」 参加
- 29日 神戸親和大学 講義「国際ボランティア論」
- 30日 定例スタッフ会議
六甲ウィメンズハウス行政・関係機関説明会 参加

5月

- 6日 神戸親和大学 講義「国際ボランティア論」
- 7日 神戸YMCA大会実行委員会 参加
- 8日 HYOMIC幹事会 参加
- 11日 関西NGO協議会総会 参加
- 13日 神戸親和大学 講義「国際ボランティア論」
- 14日 HYGON監査 参加
- 15日 篠山ロータリークラブ例会 参加
PHD協会監査
- 17日 NGO神戸外国人救援ネット総会 参加
神戸市シルバーカレッジ 講演
- 18日
- 20日 NGO神戸外国人救援ネット運営委員会 参加
神戸親和大学 講義「国際ボランティア論」
- 22日 PHD協会理事会
- 23日 オルタナティブツアーセーフトラベルセミナー 参加
JANICミャンマーワーキンググループ 参加
- 24日 One World Festival for Youth 会議 参加
川西ロータリークラブ例会 参加
- 25日 奨学生・学友研修交流会 参加
- 28日 大阪YMCA評議員会 参加
人と防災未来センター 訪問
- 29日 PHD協会ハラスメント相談員会議
HYGON運営委員会 参加
- 30日 PHD協会定例会議
コープともしびボランティア振興財団理事会 参加
公益法人NGO連絡会 参加

6月

- 1日 PHD協会来日報告会
- 3日 丹波市国際交流協会 会議
- 4日 同志社女子大学 講義
- 5日 神戸YMCA大会実行委員会 参加
- 6日 NGOインターン・プログラム オリエンテーション 参加
PHD協会第7回食料配布会
- 8日 移住連全国フォーラムWS in大阪 参加
神戸YMCA評議員会 参加
かめのり財団オンライン連続セミナー 参加
- 11日 コープこうべ総代会 参加
- 12日 神戸新聞取材
PHD協会評議員会
- 14日 伊川谷自治会 訪問
- 17日 NGO神戸外国人救援ネット運営委員会・総会 参加
梅光学院大学 講義
資金分配団体の公募助成（通常枠）説明会 参加
- 19日 篠山ロータリークラブ例会 参加
- 20日 フードバンク関西
いたみ杉の子 訪問
- 21日 神戸新聞取材
いなみ野学園大学院 講義
- 22日 神戸YMCA大会実行委員会 参加
- 23日



来日報告会集合写真。40名の方にご参加いただきました。

PHD News

訃報



バムルン・カヨータさん逝去
(1989年度短期研修生・タイ)

バムルン・カヨータさんが6月24日、持病のためお亡くなりになりました。享年73才でした。短期研修生として、日本では農業を学びました。ご冥福をお祈りいたします。

毎日新聞に掲載していただきました！



2024年5月14日 「異国の生活サポート」

掲載していただいたのは、2024年3月28日から7月7日の101日間を「みんなのいえ」で過ごしたヨルダン出身・Mさんについてです。就職活動は困難を極め、住むところもなくなり、ホームレスになる直前に「みんなのいえ」へ入居しました。滞在中はアルバイトをしながら就職活動を続け、生活を立て直しました。ビザの関係で一度ヨルダンへ帰国することに。「皆さんがヨルダンにお越しの際はおもてなししますね。ヨルダンの街並みは美しいですよ」と笑顔で旅立ちました。

↓こちらで記事をご覧ください。（※有料記事）

<https://mainichi.jp/articles/20240514/k00/00m/040/059000c>



オンライン（クレジットカード）で会費のお支払い

PHD協会ではオンライン（クレジットカード）で会費や寄付のお支払いができます。お手元のスマートフォンを使って下記のQRコードから、もしくはURLを入力してアクセスしてください。お客様情報と決済金額を入力し、決済画面からお支払いいただけます。



会員になる



※1年に1回、自動引落し。

寄付をする



「みんなのいえ」
マンスリーサポーターになる



※毎月、自動引落し。

URLはこちら⇒ <http://www.phd-kobe.org/donate/>

- ✓ PHD協会へのご寄付は寄付金控除の対象です。
- ✓ ご支援いただいた方に会報を年3回（3月・7月・12月）お届けいたします。